TIC 案内業務事例
【「V」通信 500 号 8 月(前半・後半) 】

イギリス 男性 50 代(在住)
Q:杣(そま)温泉周辺の観光について知りたい
A:先月(7 月)に引き続き来所されたリピーターの在住イギリス出身の男性。前回、後日青森の旅を予定しているという話をされていたが、どうやら途中で秋田にも立ち寄ることに決めたようだ。杣温泉を二泊予約してあるので、周辺でどこか観光できる場所はないかとの問合せ。杣温泉は山麓にある秘湯の一軒宿だが、最寄りの阿仁前田温泉駅からアクセスできる見どころはいくつかあった。しかし公共交通機関を利用するお客様でも行ける距離なのか等、定かではなかったので、現地、北秋田市観光案内所に直接電話にて確認。すると杣温泉近くの森吉山荘から送迎を利用して太平湖へ行き、そこでの遊覧船や小又渓散策を勧めてみてはどうかとのアドバイスをいただいた。山荘からの送迎については、有料でのタクシー手配となる旨を併せて確認し、ご案内。お客様は自然散策ができることや、森吉山荘に日帰り温泉があること等がとても気に入った様子であった。また秋田～青森間は JR 五能線を利用するようで、能代駅に案内所があるかも知りたいとのことだったので、認定案内所の能代市観光案内所を案内させていただいた。全国の秘湯巡りを趣味としているこの男性。前回案内した福岡、山口の旅行からはちょうど帰ってきたばかりのようで、台風に遭って天候はあまりよくなかったが、それでも温泉三昧で満喫した旅であったと話していた。
湯の沢湯本杣温泉: http://www.somaonsen.com/index.html

香港 男性 50 代
Q:PCR 検査を提出したい
A:東京 2020 オリンピック大会関係者。定期的に行わなければいけない PCR 検査を提出しに国際フォーラムへ来たが、警察官に TIC のあるビルを案内されたとのこと。しかしビル内には PCR 検査を提出する場所の設置はなく、男性に届いていたメールを確認すると、提出場所のリストにはやはり向かいの国際フォーラムが含まれている。彼はオリンピック関係者の ID をカバンに入れており、言葉も通じなかったため、恐らく対応してもらえなかった可能性もあり同行して通訳を行った。今度は入口の警備員に事情を説明し、ID を見せると中に入れてもらうことができた。しかしこの警備員も英語が話せなかったので、まずは国際フォーラム中央にあるという受付まで行って下さいというところまで通訳を行った。8 月末まで滞在するという男性。「初めての日本だし、日本語も話せないので大変だよ」と言っていたので、「ありがとう！」と手を振りながら国際フォーラムに入っていくのを見届け少し安心した。

オランダ 男性、スイス 女性、ドイツ 男女 30-50 代 他

Q:周辺店舗案内や都内観光案内

A:問合せは店舗の道案内や周辺、都内の観光案内などが中心であった。「周辺で本を買いたい」と来られたオランダの男性は、「隔離期間が終了したので街を歩いているが、今のところ何のトラブルもない。それどころか日本人は皆温かく迎え入れてくれて、日本が大好きになった」と言ってくれた。スイスの女性は、「本意ではないが明後日帰国しなければいけないので、その前に周辺だけでも観光しておきたい」とオープントップバス(スカイバス)について尋ねてこられた。「本当はもっと色々巡りたいけれど、このような状況だから仕方ない、コロナが落ち着いたらまたリベンジしたい」と話してくれた。また「日本の人達の状況はどうなっているの」と聞かれたので、緊急事態宣言が出ている地域があって、外出や移動の自粛が求められていることなどについて説明した。一方ドイツの男女のグループからは、「アニメで有名な場所(秋葉原)やスクランブル交差点を見下ろす展望デッキ(渋谷スカイ)へ行きたい」などの問合せを受けた。「今日が最終日で浅草やスカイツリー、新宿などへは行ったけど、他に東京観光で見逃している場所はないか」と、見どころを全て網羅してから帰国しようとしている様子がうかがえた。

アメリカ 男性 50 代

Q:日本地図および東北の地図が欲しい

A:数日後に東北、特に太平洋沿岸部の福島県浪江町や双葉町、岩手県大槌町などの東日本大震災の被災地をメインに 2 回に分けて訪れる予定。日本地図と東北地図を渡し、全体像を見ながらそれぞれの場所と交通手段を確認した。また、現地を歩いて散策することも検討しているようだったので、東北太平洋沿岸部に伸びる「みちのく潮風トレイル」についても紹介。お客様はご存じなかったようで、「後ほどホームページで確認して歩けそうなエリアをぜひ検討してみるよ」と喜んでいた。元々様々な写真を撮り雑誌を書いている方で、以前も東北太平洋沿岸部へ足を運んで撮影した時の写真を雑誌に掲載したことがあるらしく、震災当時の写真なども見せてくれた。「今年で震災から 10 年が経ち、各地の復興状況を確認しながら、現在の様子を写真に収めて回りたい」と話していた。
みちのく潮風トレイル(英語) http://tohoku.env.go.jp/mct/english/